



水面はさざ波一つ立たず、岸辺の水底透けて見えます。アオコの浮く夏とは比べものにならない冬の池です。一月前とは打って変わって、曇り空で暗く冷たい日でした。ヒヨドリやカワウの若鳥の声と何か確かめられなかった低いなり音を背景に鳥の声に耳を澄ませました。今回のニュースは、いつ来るかいつ来るのかと待っていた渡り鳥のツグミの群に会えたこと、久しぶりに会えたオナガガモです。

### ツグミ(冬鳥)

例年なら11月頃には姿を見せ、1月のツグミは一匹ずつ単独で行動しているのが普通で、木の実を食べたり地面をついばんだりしています。しかし、今年はなかなかツグミが現れず、この4日前に日進市の東部丘陵で樹上に止まった一羽を見たきりでした。それが愛知池には10羽以上の群(右写真)が来ていて、葉の落ちたコナラなどの枝先に止まり鳴き声もよく聞こえました。

今年はツグミに限らず冬鳥の数が少ないと思われる。自然に異変?なんてことがないように



風切羽をややおろした姿

170105 愛知池

地球環境に悪いことは避けたいものだと思います。



葉の落ちた枝に止まり、落ちつかない感じで、あっちへ行ったりこっちへ行ったりしていました。中には木の実を銜えたツグミも見ました。まだ渡ってきたばかりなのではないでしょうか。

<ツグミの特徴> 全長 24 ㎝。胸にまだら模様、風切羽がチョコレート色。繁殖地はシベリア方面。毎年集団で渡りを繰り返している。雑木林の中では見られず、開けた畑や草地、公園さどで見られる。雑食性であるが、木の実が少なくなると地面のミミズなどを食べている。



**オナガガモ(冬鳥)**

全長は 75 ㌢と図鑑にはありますが、尾が長いので実際には 50 ㌢くらいで、カルガモより小さめです。以前は愛知池の南に流れる境川でも何羽か来ていましたが、このところぱったり姿を見せなくなっていたのです。正面から見ると白い首に茶色い顔が印象的です。横から見ると尾部のクリーム色が目立ちます。



**アジサイ冬芽**

冬芽には鱗のような皮を被ったり毛を密生したりするものが多いが、アジサイは2枚の幼葉が向き合っているだけの裸芽です。



**アオジ(冬鳥)**

曇り空でしたが望遠鏡で見ると、胸のひわ色がとてもきれいでした。

**ひわ色**



**チャミノガ籠**

枝に垂直に張り付きます



**イスノキ**

**エダナガタマフシ**  
イスノキの小枝につくイチジクの実に似た虫こぶ。アブラムシが作り、秋に生まれた有翅虫はアラカシに移住します。



左:バン(留鳥) 右:オオバン(夏は移動)

**植物** スイセン、ツワブキ実、カラスウリ実、スイカヅラ実、アメリカセンダングサ実、イタドリ実、冬芽・ロゼットなど、 **昆虫・クモ** チャミノガ籠、ユスリカ、 **鳥・その他** (冬鳥は太字)ミサゴ、ハシボソガラス、セグロセキレイ、メジロ群、コゲラ声、ハクセキレイ、**アオジ**、**ツグミ**群、キジバト、ウグイスの地鳴き、アオサギ、バン2、**カンムリカイツブリ**群れ、オオバン、**ホシハジロ**群、**キンクロハジロ**群、カワウ群れ(若鳥)、ナミコギセル(陸貝)、サルノコシカケ類、ネンドタケ、ハカワラタケ、イスノキエダナガタマフシ、

**次回は2月14日(木)、午前9時30分～12時、水資源機構P前集合、参加費100円**